

第6回

紀伊万葉ウォーク

系我峠のお花見と

船でめぐる 白崎・白神

日時 平成24年3月24日～25日

3月24日(土)コース

●集合 紀勢本線紀伊宮原駅 午前11時30分

参考 新大阪駅9時32分発～JR特急くろしお5号～和歌山駅10時33分着
乗換 和歌山駅10時45分発～紀勢本線御坊駅行～紀伊宮原駅11時20分着

●コース

(食事は済ませてから、お集まりください)

紀伊宮原駅～得生寺～系我峠～施無畏寺～バスで広村堤防～湯浅～日帰り参加者は湯浅駅解散(4時30分頃)・宿泊・交流会参加者はバスで白崎青少年の家 全国万葉交流会白崎青少年の家7時頃から開催

●宿泊・交流会会場

和歌山県立白崎青少年の家 和歌山県由良町大引961-1
(☎0738-6512351)

3月25日(日)コース

●出発・集合

午前8時30分白崎青少年の家
～白崎万葉公園～大引港・9時30分発～白神の磯めぐり～湯浅港10時30分～湯浅伝建地区散策～紀勢本線湯浅駅～12時解散予定

参考 湯浅駅12時19分発～JR特急くろしお14号～新大阪駅13時50分着

足代過ぎて

系鹿の山の桜花

散らずあらなむ帰り来るまで

(7・1212)

湯羅の崎

潮干にけらし

白神の

磯の浦廻を あへて漕ぐなり

(7・1671)

白崎は

幸くあり待て 大舟に

ま梶しじ貫き

またかへり見む

(9・1668)

参加申込み・問い合わせ先

紀伊万葉ネットワーク

事務局 木村

携帯電話

090-8232-5971

住所

649-7166

和歌山県かつらぎ町高田

118-4

申込み

官製ハガキで、参加日時・住所・氏名・年齢・電話番号・宿泊有無を明記下さい。

申込み期限

平成24年3月15日

ウォークのみは当日参加OK

・宿泊、船での磯めぐり参加を御願いたします。

加申込みは定員45人で打切りさせていただきます。

行事参加者の傷害等については日新火災海上保険(株)レクリエーション傷害保険等に参加対応させていただきます。

現地経費概算

ウォークのみの参加者 無料

宿泊・白神の磯めぐり参加者5,500円

(宿泊食事代・海上交通・バス代等)

交流会のみ2,000円

現地までの往復交通費については各自負担を御願いたします。

主催：系我・白崎・白神めぐり実行委員会・紀伊万葉ネットワーク
共催：NPO 法人市民の力わかやま
後援：和歌山県・和歌山県教育委員会・(社)和歌山県観光連盟
有田市・有田市教育委員会・有田市観光連盟
湯浅町・湯浅町教育委員会・湯浅町観光協会
広川町・広川町教育委員会・広川町観光協会
由良町・由良町教育委員会・由良町観光協会
全国万葉協会・JR 西日本和歌山支社

講師

近畿大学文芸学部教授 村瀬 憲夫氏
全国万葉協会会長 富田 敏子氏
湯浅町教育長 垣内 貞氏
万葉歌碑研究家 佐々木政一氏

万葉植物研究家 山元 晃氏
万葉植物研究家 馬場 吉久氏

地元語り部多数

問い合わせ 090-8232-5971 木村携帯

万葉故地 系我・白崎・白神ウォーク

第6回 紀伊万葉ウォーク(第6回お宝発見ウォーク&野外講座) 平成24年3月24日(土)~25日(日)

国鉄や国道の路線とはちがって、熊野街道は、海南から藤白坂や蕪坂峠を越え有田市宮原町道にて、有田川を渡り系我峠を越えて湯浅にむかっている。ここに紀伊宮原駅の東から有田橋を渡れば系我町(有田市)で、その系我王子社の横から峠路にかかる。峠路はいまほとんど蜜柑畑で通る人としてなく、夏みかんのたわみにみゆる下をくぐってゆくような小道の横に、むかしの道しるべが倒れかかっていたりする。山桜は麓にも峠にもいまも見られる。有田郡はもと安諦郡といわれた。この歌の「足代」は有田川畔などにあった郷名であろう。



暖い気温の紀路の桜はいちはやく峠道に咲いている。歩をはこんでゆく旅人にとっては、異郷の峠に見出した桜はあざやかな心ひかれてあつたらう。足代もすぎ系我の峠路をゆく進行途上の感に裏付けられた峠の桜への心のこりを訴えるのも、遠く紀路を南下してゆく旅心のはずむ思いであろう。紀路もこいまでへんとい



系我

空気はとみに明るく、南国の香も近づいてきたような感じで、蜜柑山に働く人の声がとどえると、向う峯から山鳩の声がきこえてきたりする。峠道の途中では栖原に越える鹿打坂がわかれていく。これも古い道らしい。山を越えた湯浅湾の展望はともすればらしく、毛無島・刈藻島・鷹島・黒島をうかべた大景で、「白神の磯」(巻九一・二七二)かといわれる栖原山(白上山)裾の磯辺も眼下に望まれてくる。万葉の旅(中) 犬養孝著より抜粋

あて 足代過ぎて
いとが 糸鹿の山の 桜花
かへ 散らずあらなむ 還り来るまで
作者未詳 (巻七一一二二二)

当日参加 OK
ウォークのみの日帰り参加者コース
JR 紀伊宮原駅～得生寺～系我峠～施無畏寺
施無畏寺からバスに乗り 広村堤防～湯浅～ JR 湯浅駅解散



白崎

人は神秘荘厳の自然の景観に接したとき驚異と賛歎の思いをいだく。それはいうならば自然の悠久に対する人間の生の有限の自覚される時でもある。まして当時の都人が航行の危懼をよどしなから刻々に変化してくる南海の海上におかれた場合、白聖の岬に「幸く在り待て」(いつまでもかわらずに待っていてくれ)と呼びかけ、大船に艦をいっばいつけてまたやってきて見ようからと驚異の心情の躍動を見せるのも当然である。サキの音のくりかえしによる諧調もこれを助けられている。この歌は、大宝元年(七〇一)持統・文武の紀の湯行の作で、南にゆくほどに躍動してくる紀伊の景観が、大宝の都人の心魂をゆりうごかす実相と見られる。

しらさぎ 白崎は 幸く在り待て 大船に
まがぢしじぬ 真揖繁貫き またかへり見む
作者未詳 (巻九一六六八)